

平成 30 年度デイパーク大府事業活動報告

施設開所 20 周年という記念の年度であり、地域密着型サービスの開始、公益性の発揮、質の高い福祉サービスを継続して提供し、利用者が安心して暮らせるような「地域」重視の運営体制や人材の育成、「地域の皆様に愛され、頼られるデイパーク大府」を継続して取り組んできた一年でした。

1) 法人全体

① 施設及び体制整備

- ・指定認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）2 ユニット 18 名定員平成 30 年 4 月 1 日開所しました。
- ・「節電コンシェル」活用し電気の見える化、効率的な電気使用、経費を削減しています
- ・本館施設大型改修の第 1 期工事を施工し、防水・外壁・給湯・冷暖房・ガラスサッシ・消防設備・玄・照明・玄関周り外溝改修行いました。
- ・安全衛生委員会で、感染予防啓発を促し、まん延予防に努めました。
- ・定着支援制度を活用し、メンター制度、訓練休暇制度等、有休消化促進、働きやすい職場作りを推進しましたが、離職率 13 パーセントへ増加しました。（昨年 2% 増加）
- ・現在 7 名の障がい者の方が職員として勤務し、障がい者雇用率（+3.5%）充足を達成したため、31 年度も引き続き奨励金の受給法人となります。
- ・20 周年記念誌の発行と職員の慰安旅行（176 名中 145 名参加）を再開しました。

② 利用者支援

- ・毎月の行事食を目当てに追加利用される方も定着し、食事提供改善に取り組んでいます。
- ・年間 50 回程度のギターによる弾き語りの音楽教室を実施してきました。
- ・年間 120 回程度の演芸ボランティア慰問を利用者全体で楽しみました。
- ・年間 180 回程度の買い物支援、移動販売等で買い物を楽しんでいただきました。
- ・交流ホール内の喫茶コーナーをボランティア・職員の協力により実施しました。

③ 地域貢献

- ・20 周年記念夏祭りを飲食無料、宝くじ等で地域の皆様へ感謝祭として開催しました。
- ・年末のもちつき大会に地域の子供会、住民の方に多数参加いただきました。
- ・交流ホールに 9 種類のトレーニングマシンを設置し、地域の方々にも使用頂いています。
- ・交流ホールで月 2 回、地域の高齢者とケアハウス入居者、デイサービス利用者による健康体操を実施継続しています。
- ・地域の方を交え法人全体で防災訓練を実施しました。
- ・障がい者就職トレーニングセンターと連携し、職場相談支援行いました。
- ・市の委託事業とは別に独自契約の配食サービスにおいて、11 名、延べ 200 食の方に夕食の宅配と合わせ安否確認を実施しています。
- ・さくら祭りを実施し、多くの地域住民の参加を得ました。
- ・会議室を地域自治会や子供会の会議等に毎月利用してもらっています。

2) 特別養護老人ホーム 利用定員 80 名

新規入居者数 21名 退居者数 23名

稼働率 95.8% (前年度稼働率 95.6%)

・30年度の退居者数は23名と、例年より多めの入退居がありました。そのうち65%の方を当施設でも看取らせていただき、昨年度の改正で看取り加算が増加されたことで年間、90万円の収入になりました。全体の収入としても減額にはなりませんでしたが稼働率も昨年と比べ0.2%増のみほぼ同率の結果となりました。
昨年後半、秋以降に看取りの方が、続けて亡くなられたことと、近隣に特養ができたこととで、退居から入居までの空室期間が長くなってしまいました。

一方入院者数は年間20名、半数は誤嚥性肺炎等ですが、後の半数の方は、原疾患の癌やパーキンソン・皮膚病による感染症等、昨年同様多様化しています。転倒、骨折による入院は1件のみでした。

今後は当施設の強み、嘱託医の協力のもと、看取り介護を充実させていくこと
多様化した疾患にも対応できるよう透析や胃婁・ストマ・感染症に対して
知識・職員教育等を充実させ、レベルアップしていく必要があると考えます。

今後は、今まで以上に医療との連携が必要になり、ご本人の状態把握、ご家族との関係
もより充実していく必要があり、空室期間が少なくなるようにと努力していきます。

介護については入居と同時にご本人やご家族からの聞き取りや他機関からの情報もあわせて、
24時間シートを使用し生活の場としてその人らしく過ごしていただいています。
ご本人やご家族のご希望の添えるように、自宅や外食等の送迎サービスも
行っています。入居後もご家族との時間は大切にいただいています。

排泄ケアについても個別に検討しトイレ誘導時間、おむつ交換、パットの種類の検討、入居者
様にあったケアをすすめ、おむつ使用量の削減にもつなげていきました。

・職員の夜勤時間の短縮も実施いたしました。入居者様の生活に合わせての、職員配置
時間の変更を実施し、昼間の時間に職員を多く配置しています。
入居者様の要望に対応できる様に今後も検討していき変化に対応できるようにします。

3) 短期入所生活介護事業所 利用定員30名

延べ利用者数 9,156名

定数に対する稼働率は83.6%で前年度比8.9%減少いたしました。

過去 10 年、ショートステイの歴史を振り返ってもここまでの数値はありませんでした。昨年 8 月辺りから、ケアマネジャーからの新規ご利用者の問い合わせが減り、契約数が減り、一昨年の動きとは違う何かを感じておりました。

稼働率減少の理由として考えられることとしては、大きく 3 つ挙げられると分析します。

- 昨年 4 月にグループホームが開設しショートステイから施設入所される等、選択肢が増えたこと。
- 特別養護老人ホームの入所者がほとんど要介護 4・5 の方が入所されており高齢化し、施設内回転率が上昇したため、施設入所待ちのご利用者が入所される。
- 近隣に大型の介護施設ができ、施設入所待ちのご利用者の数が減少したことが主に上げられ、ショートステイがその影響を諸に受けたものと考えられる。

担当者としてもあらゆる努力はいたしましたが、稼働率を上げることはできませんでした。あらゆる努力とは、ケアマネジャーへの新規利用の働きかけで、居宅事業所に新聞を配布し当事業所の空所の情報提供を継続してまいりました。

積極的に緊急入所を受け入れ、レスパイトの事例に対しても受入れを行いました。新規獲得率を見ましても前年比と比較すると 5% 増にもかかわらず、ショートステイの稼働率があがらなかった理由としては、上記のことが影響したからと分析します。

又、平成 30 年 10 月以降、職員の自己都合による退職、怪我等による職員の不足に見舞われ、他事業所より応援を頂きながら業務を行いました。募集をしていただきましたが、早急な職員の確保が見込めないまま、業務を回せざるえない事態が続きました。

現在は業務改善・夜間帯業務時間の変更、人事異動、新入社員の入社により改善しましたので、心機一転、新たなメンバーでご利用者にとってショートご利用時、快適な生活を送っていただけるように、利用者本位を追求していきます。施設入所待ちのロングのご利用者に関しては、24H シートを作成し援助を行うしくみができつつあります。

今後も、グループホームや特別養護老人ホームの施設待機者も視野に入れつつ、積極的な受入れ活動を行ってまいりたいと思います。

4) 第 1 デイサービス 利用定員 30 名

第 1 デイサービス 利用定員 30 名

延べ利用者数 ; 7,140 名

稼働率 76,6% (前年度 80,2%)

- ・第 1 デイ (土曜定休)、第 2 デイ (日曜日定休) で前半は、両方利用される利用者様が増えま

した。まだ、利用数の波があり十分な数字が打ち出せていない為ケアマネージャーに積極的なPRと増員に目指したいと思います。

- ・1年の行事、好評である流しそうめん、夏祭り、カラオケ大会を軸にし利用者様に楽しんでいただきました。

- ・今後の課題として、環境、設備等の改善

新規利用者獲得に向けた具体的な取り組みを課題

研修会等の参加により職員のスキルアップに向けた取り組み

5) 第2デイサービス 利用定員 30名

利用定員；30名

延べ利用者数；8,157名

稼働率；88% (前年度86%)

30年度は、グループホームの方々を招いて銭太鼓の発表会を行うことができ、2年連続での発表会で、昨年より落ち着き、楽しんで取り組むことができました。大須くるくるさんや地域の方々、そしてスタッフの心構えの変化により、素晴らしい発表会ができたと感じます。

また、(ボランティアのチームみこくん)や(ジョイサウンドの機材)の活用で、銭太鼓の時のように舞台上上がる機会が増えたことや歌がお好きな方が増えたことにより、活気のあふれた生活をしていただいています。

また、男性陣の器用さが光り、作品作りの下準備を楽しみにされている方もおられ、女性と男性の役割分担がしっかりできています。

稼働率についても、2月～3月にかけて、利用回数がおおかった方の入院や亡くなる方も続き、稼働率が伸びなかったと感じます。

居宅事業所に、営業に出かけたり、今の状況を伝えたりと少しずつではありますが取り組むことができています。今後はスピードある取り組みをなんとか出来るようにしていきたいです。

6) ケアハウス 利用定員 30名

ケアハウス 利用定員 30名

6月1日現在 30名 (1名入院中)

新規入所者 4名 退去者 4名

施設開所時から入居しているご入居者が2名、全体的に長期的な利用となっておりますが、30年度は4名の入居者が加わり新鮮な雰囲気の様変わりしています。

介護認定入居者も増えてきて。薬の管理に注意が必要な人や訪問介護等の利用を受けて、ケアハウスの生活が成り立っているご入居者様も出てきています。

ご入居者様にとって潤いのある生活を持ってもらうため、陶芸教室、健康体操、絵手紙教室、手芸教室、カラオケ等生きがい支援活動も年間を通じ 156 回以上実施しています。

特に陶芸サークルの作品は、夏祭りや福祉健康フェア、さくら祭り等にて販売も行い、売上金は材料費等に充当し、余剰金は親睦会にも充てられています。

訪問歯科医院の協力を受け、希望するご入居者全員に無料による定期歯科検診を実施するとともに、継続的な治療が必要なご入居者様には居室での歯科診療、義歯調整を行ってもらっています。

月 2 回の買い物ツアーも定期的実施しております。1 回の参加者は 7 名前後で、入居者の希望を伺いながら、近隣のスーパーマーケットへ出掛けて送迎の援助を行っています。外出することにより、地域の方とのコミュニケーションが増え、社会参加活動にも貢献しております。

入居者様の中でご希望者には機能訓練指導員の指導により、定期的な体力測定とトレーニングマシンの活用を進めています。

定期的に管理栄養士と担当者による、入居者様との面談の実施を行い、嗜好、健康、日常生活、食事（献立）などの検討を行って生活向上に貢献しております。

令和元年度は入居者の生活向上の応援として、6 月より市内の医療機関やスーパーマーケット、共和駅、大府駅等を巡回する無料送迎サービスを行っています。

また、現在も扶助サービスを行っておりますが、名称変更も視野に入れて、より実態に即したサービス等を提供できるよう、入居者の意見を参考に計画を立て、生活向上の応援を目指していきます。

7) 居宅介護支援事業所

延べ利用者数 1,505 名、うち要支援者 186 名、介護予防ケアマネジメント 130 名、前年度比、28 名減少。うち要支援者・介護予防ケアマネジメント 19 名減少。

- ・介護支援専門員 4 名を配置し、(内、主任介護支援専門員 1 名、非常勤職員 1 名配置) 特定事業所加算 (Ⅲ) として認定を受けています。
- ・各事業所と連動し 3 6 5 日営業し、柔軟に相談を受けられる体制を図っています。
- ・特定事業所として、市内外の地域包括支援センター、医療機関からの支援困難ケースを受け入れ、行政、医療との連携を積極的に行いました。
- ・地域包括支援センターの実施する事例検討会や大府市主催「他職種連携」等研修会に参加しました。
- ・「大府市主任ケアマネの会」に参加し地域のケアマネージャーの資質向上を目的に研修会を

開催いたしました。

- ・平成29年度より始めました「新カリキュラム 愛知県介護支援専門員実務研修」の実習生を4名受け入れました。
- ・新規受け入れを積極的に行いました。

8) グループホーム

2ユニット 定員 18名

新規入居者数 21名 退去者数 3名

稼働率 85% (昨年4月開所の為、前年度比率なし)

昨年4月に開所し、4月2日をスタートに7月11日に最終18人目の方が入居されました。当初利用者様の特徴の把握や職員の動態、物品の場所等わからない事が多く、一生懸命動き回る事が日課でした。その中で、不穏になる利用者様に寄り添い、傾聴をしながらの日々でした。皆で初めて取り組んだレクリエーションが母の日のうどん作りでした。雨が降っているにもかかわらず、外のひさしの下で天ぷらを作り、中ではうどんの準備ととても楽しい時間を過ごしました。

理事長宅の庭を借りての畑作業、げんきの郷への遠足や足湯にも出かけ、外食レクも行っています。利用者様のニーズに合わせてレクリエーション活動を行い、個別のレクリエーションにも取り組みました。

法人内でありながら単独の事業所ですので、食事も本館厨房より車で配食し、本館の催しには車や歩行で移動したりしています。

8月より体制を整えてサービス提供体制加算、12月医療連携体制加算を追加しております。今後、外部研修にも積極的に参加し、認知症の人に対してしっかり対応が出来る様にスキルUPに心掛けて行きたいと思っております。

9) 今後の行事予定

- | | | |
|-----|--------|----------------|
| 8月 | 24日(土) | 夏祭り |
| 9月 | 中旬 | 地域住民との合同消防訓練 |
| 12月 | 下旬 | 地域住民との交流もちつき大会 |
| 3月 | 下旬 | さくら祭り |